

「総合的な雨水対策 ～ 雨に強いまちづくり～」

総合的な雨水対策の推進について

近年、気候変動の影響により、河川や下水道の排水能力を大きく上回る集中豪雨が増加し、全国各地で甚大な水災害が発生しています。気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川・下水道管理者による取組みだけでなく、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民）が協働して、ハードおよびソフトからなる雨水対策を総合的に展開していくことが必要です。



あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」のイメージ

本市の雨水対策については、

- 安全に雨水を「流す」
- 雨水を「貯める」
- 水害に「備える」

この3つの対策を主軸として、自助・共助・公助が連携・協力し、ハードおよびソフトからなる雨水対策の総合的な展開を推進していくことで、「雨に強いまちづくり」を目指しています。



安全に雨水を流す

雨水を安全に流すために、河川や公共下水道（雨水）の整備を実施します。

●河川の整備



●公共下水道（雨水）の整備



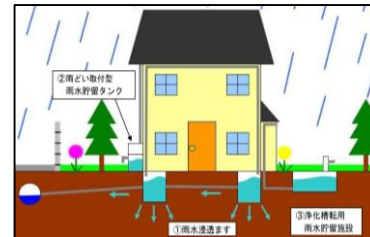
雨水を貯める

河川等の排水施設への雨水の流出量の低減や健全な水循環系の再生を図るために、雨水流出抑制施設の設置を促進します。

●学校等への雨水貯留浸透施設の整備



●雨水浸透ますの設置促進



水害に備える

水災害から命や財産を守るための適切な避難行動をとるために、水害リスク情報の充実等のソフト対策の充実化を図ります。

●ハザードマップによる浸水リスク情報の提供および河川水位情報の提供

